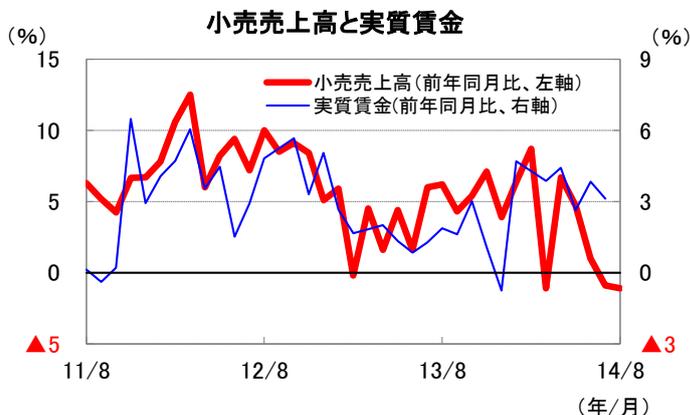


今日のトピック 最近の指標から見るブラジル経済(2014年10月) 消費による景気の下支えに期待

ポイント1 賃金上昇が消費を支える

ワールドカップ終了後に持ち直し

- 8月の小売売上高は前年同月比▲1.1%と、2カ月連続のマイナスになりました。ただし、前月比は+1.1%と、6月、7月のマイナスからプラスに転じました。消費はサッカー・ワールドカップの開催中に落ち込みましたが、終了後に持ち直しました。賃金の上昇などを背景に、消費が景気全体を下支えすると期待されます。
- 8月の鉱工業生産指数は前年同月比▲5.4%と、3月以降6カ月連続のマイナスになりました。ブラジル中央銀行(以下、中銀)の利上げ(昨年4月以降合計3.75%、現在の政策金利は11.00%)などが内需を抑えていると見られます。



(注)小売売上高は2011年8月～2014年8月。実質賃金は2011年8月～2014年7月。
(出所)Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 物価上昇率は高止まりが続く見込み

政策金利は当面据え置きに

- 9月の消費者物価指数は前年同月比+6.75%と前月の同+6.51%から上昇し、中銀の目標レンジ(年+2.5%～+6.5%)上限を上回る推移が続きました。中銀は、賃金や公共料金の上昇を足元の主な物価押し上げ要因と見ています。
- 景気低迷の一方、足元のブラジルレアルの下落による物価押し上げも懸念され、中銀は現在11%の政策金利を当面据え置くと思われる。



(注1)データは2011年9月～2014年9月。
(注2)市場予想は、ブラジル中央銀行が10月13日に発表した調査結果。
(出所)Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 政権交代による経済政策の刷新、成長ペース加速への期待が高まる

- 現在大統領選挙が実施されており、10月26日にルセフ現大統領とブラジル社会民主党のネーベス氏の決選投票が行われます。
- 再選を目指すルセフ氏は、景気低迷などが逆風ながら、最低賃金引き上げ政策などから根強い支持層を持ち、第1回投票をトップで通過しました。
- 一方のネーベス氏は、経済政策として中銀の

- 物価目標の重視、税制の透明性や公平性の向上、投資増に配慮しながらの財政赤字削減などを掲げ、現政権への批判票を集める見込みです。
- 直近の世論調査では、ネーベス氏がややリードしています。足元では、政権交代で経済政策が刷新され、投資の拡大などにより経済成長ペースが加速するとの期待が高まっています。

ここもチェック!

2014年10月06日【キーワード No.1,427】大統領選挙の第1回投票(ブラジル)
2014年09月04日【デیلیー No.1,946】ブラジルの金融政策(2014年9月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。